

京都市立芸術大学及び京都市立銅駝美術工芸高等学校移転整備 基本設計

- | | | |
|---|-------------------|---------|
| 1 | 付近見取図, 専攻配置概要 | p.1 |
| 2 | 平面計画 | p.2-7 |
| 3 | 断面計画 | p.8 |
| 4 | 環境への配慮, 安心・安全への配慮 | p.9 |
| 5 | デザインイメージ | p.10-17 |

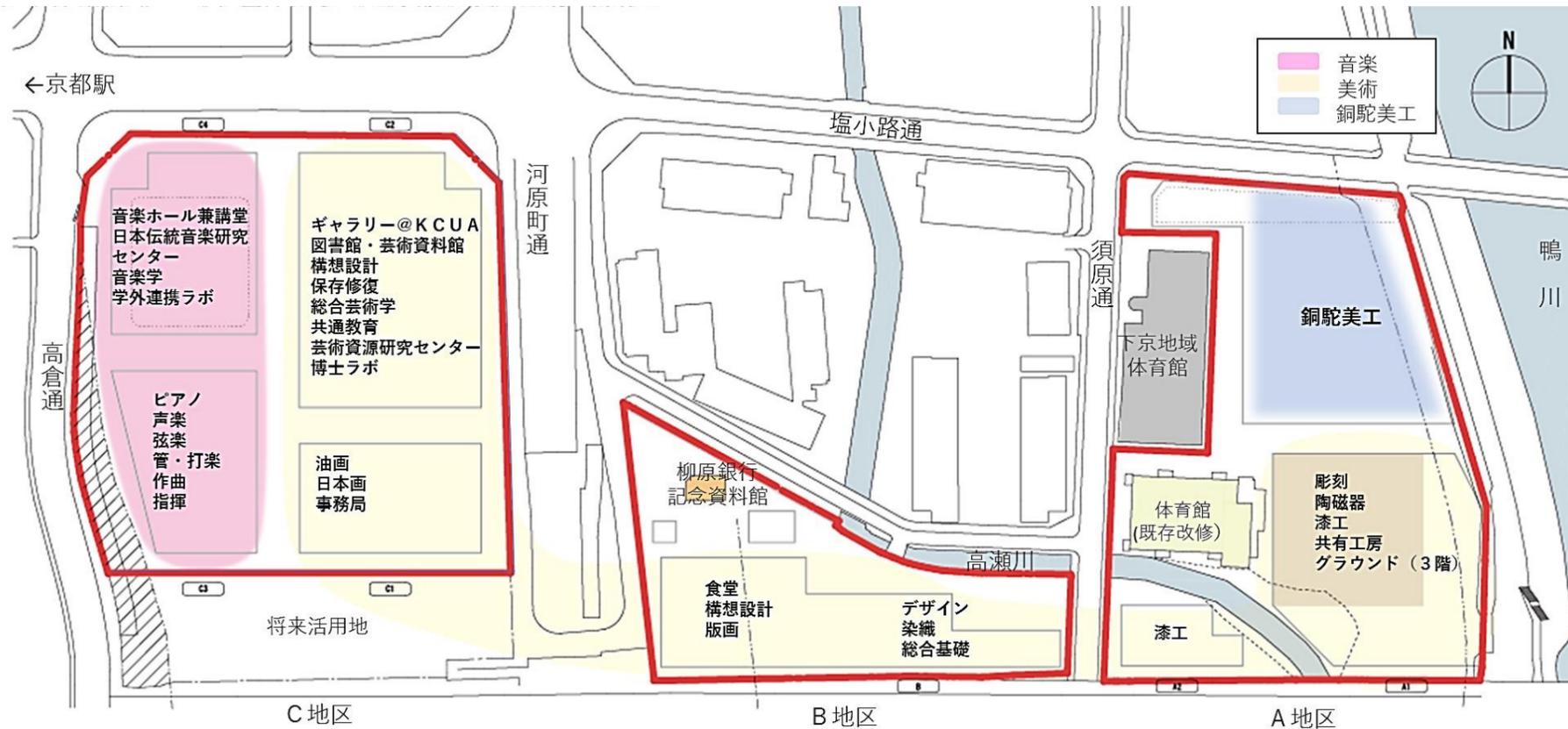
1 付近見取図・専攻配置概要



地区 (名称)	京都駅側の地区 (C地区)	中間の地区 (B地区)	鴨川沿いの地区 (A地区)	
種別	京都芸大	京都芸大	京都芸大	銅駝美工
敷地面積(m ²)	約15,900	約6,000	約12,700	
延床面積(m ²)	約48,700	約10,000	約9,300	約9,100
	合計：約77,100			
階数	地上7階 地下1階	地上5階	地上3階	地上4階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造

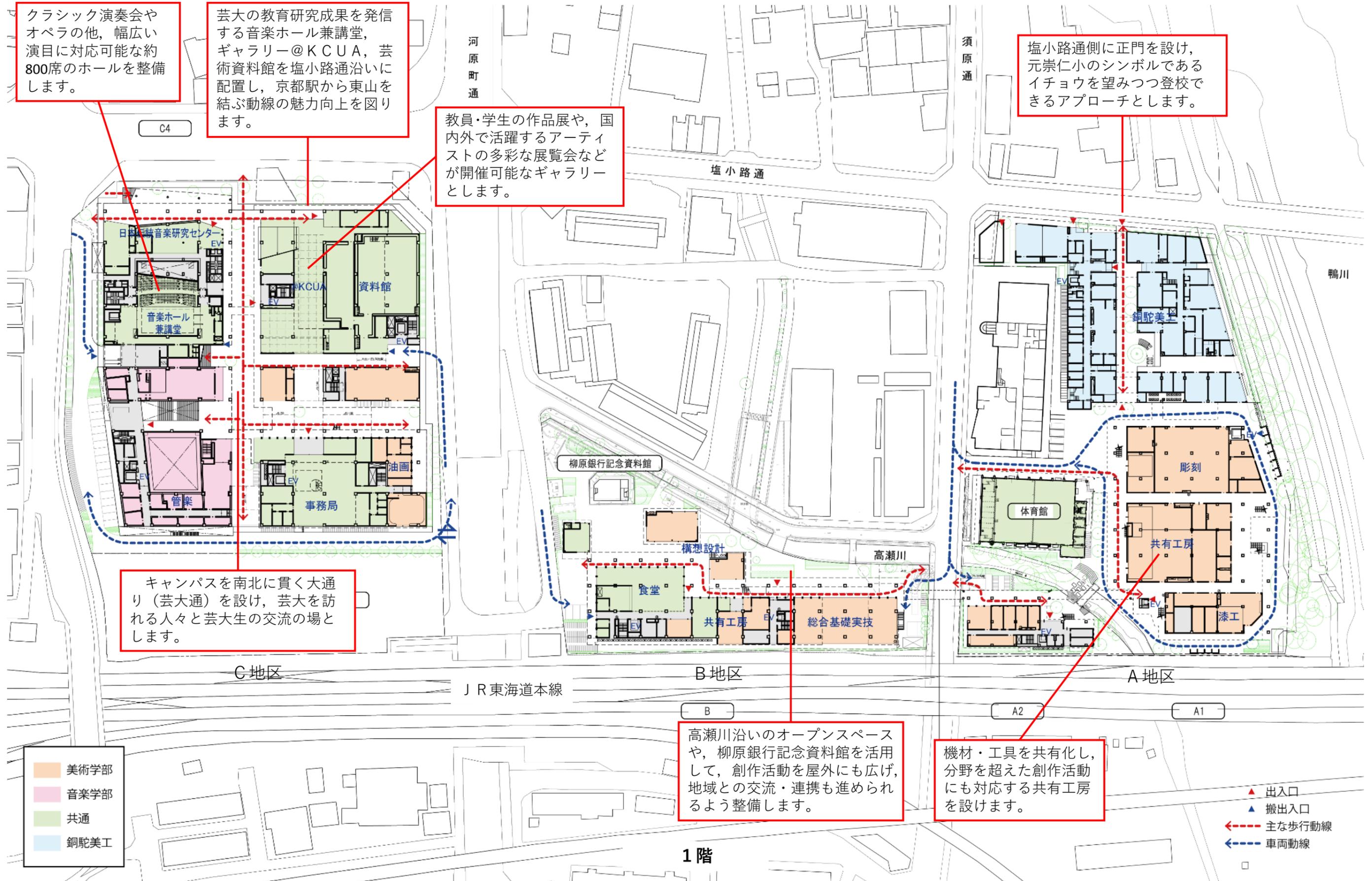
※延床面積にはテラスやピロティ等の屋外面積約9,400m²等が含まれる。

専攻配置概要

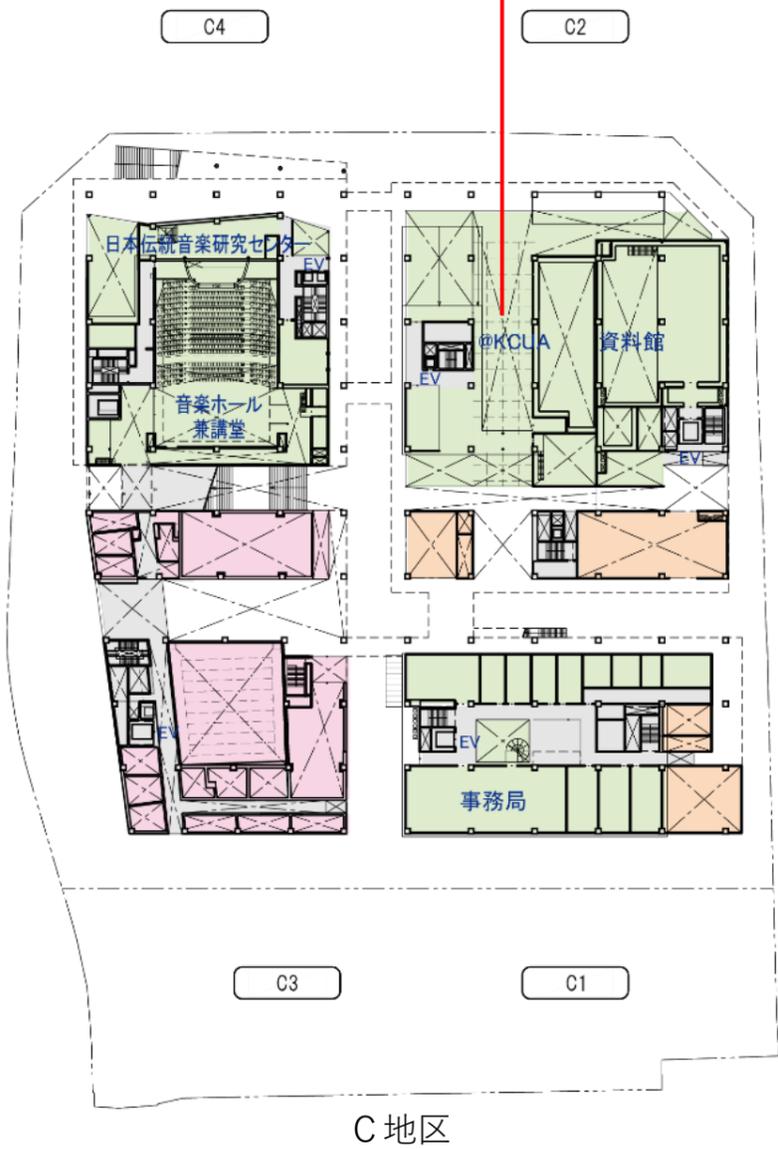


※A地区南東からの鳥瞰イメージ

2 平面計画



大きな吹き抜けの展示空間を設け、多様な使い方に対応できるギャラリーとします。



C地区

- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅駝美工

2階

中庭を中心に、生徒が自然に交わるよう教室を配置します。

東山を望みながら生徒の交流や作品制作が可能なテラスとします。

キャンパスをつなぐ上空通路の設置を検討します。

高校と大学の連絡通路を設置し、大学内を高校生が通り、大学の制作風景に触れられるようにします。



B地区

A地区

▲ 出入口

1階から続く大階段を設け、音楽ホール兼講堂や図書館への動線とします。

学生の創作活動の場ともなるテラスにより各棟を結び、京都芸大を訪れる人々との交流が生まれるようにします。

各専攻の実習室は、間仕切りを可動式にし、受講人数の変化にも対応可能とします。

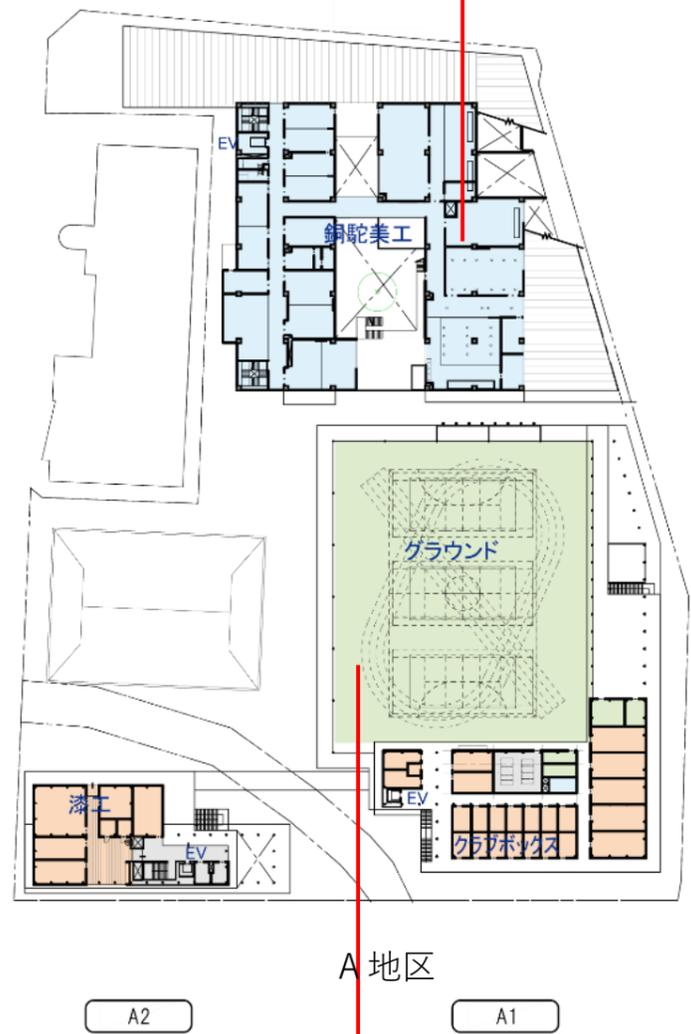
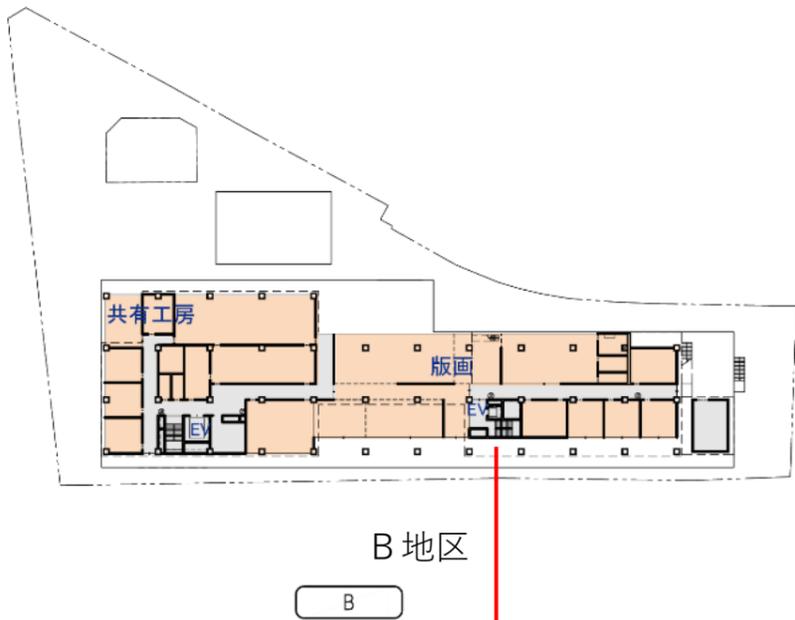
図書館は3階から5階まで吹抜けとします。

大きな中庭を囲んでレッスン室や練習室を配置することで、交流が生まれるようにします。

J R側から芸大の多彩な制作活動が表れるようにデザインします。

屋上グラウンドを整備し、京都芸大・銅駝美工が共に利用できるものとします。また地域に開放された動線を確保します。

- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅駝美工



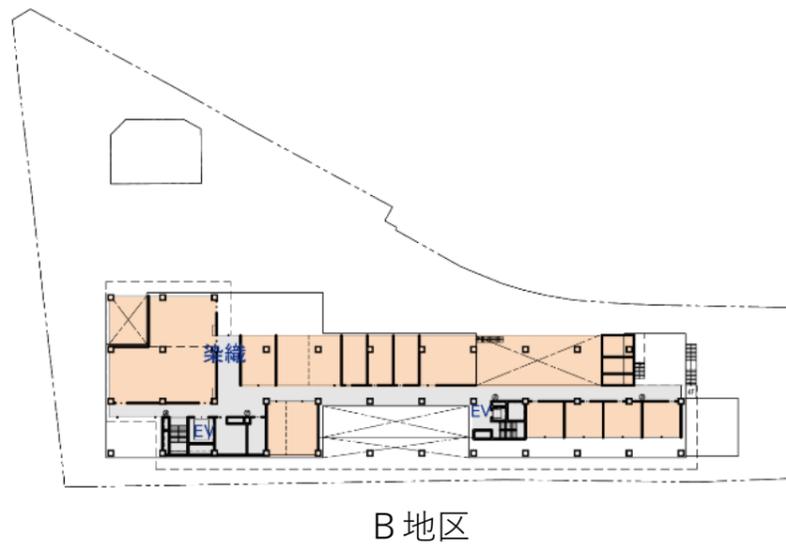
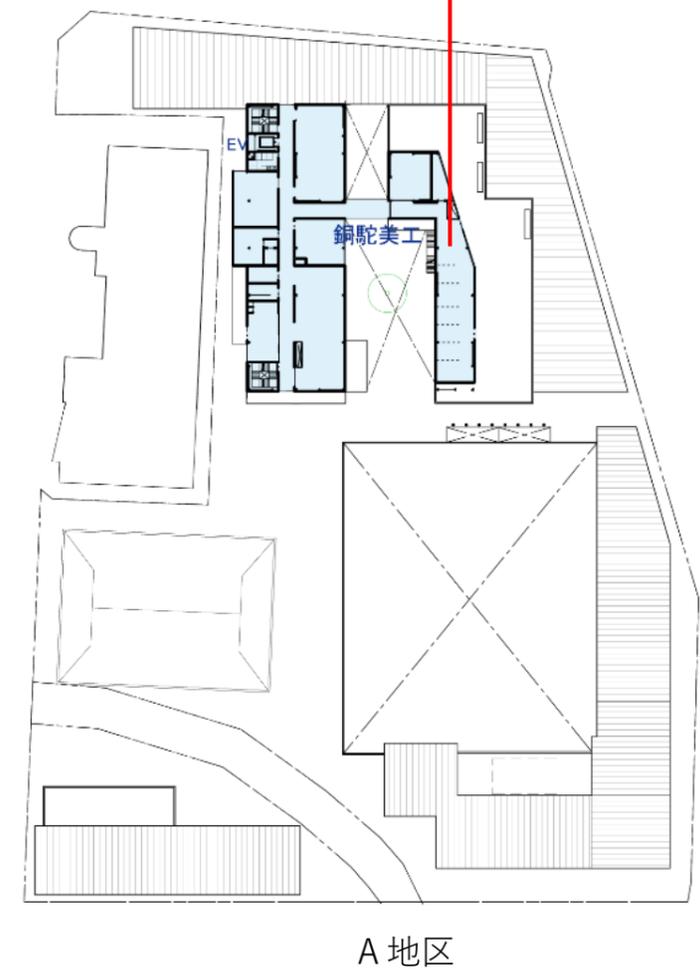
▲ 出入口

3階

図書館の周囲を様々な専攻が取り囲み、連携のとりやすい配置とします。



眺めの良い最上階に日本画・洋画の実習室を配置します。



4階



▲ 出入口

図書館の周囲を様々な専攻が取り囲み、連携のとりやすい配置とします。

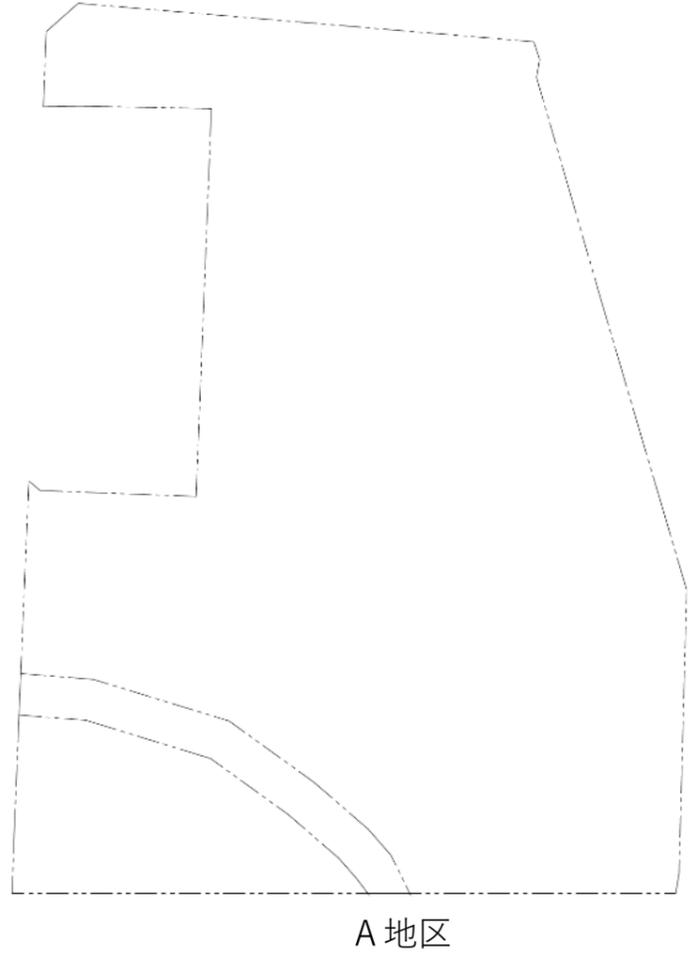


C地区



B地区

B



A地区

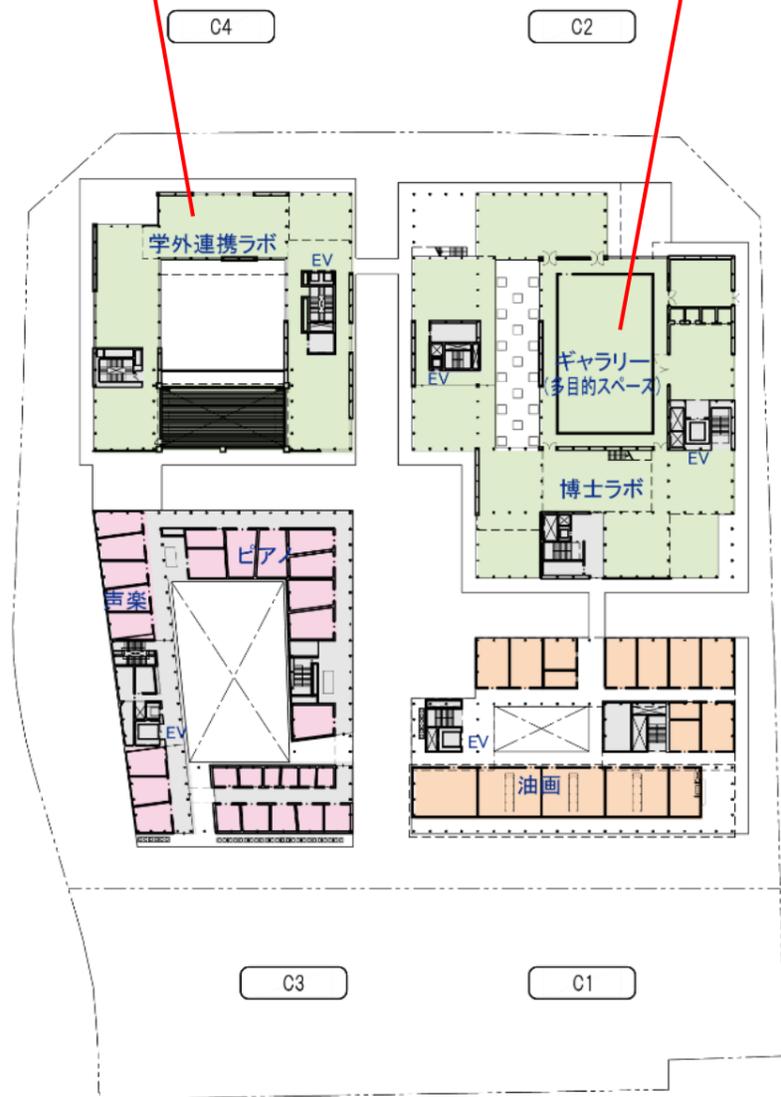
- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅駝美工

▲ 出入口

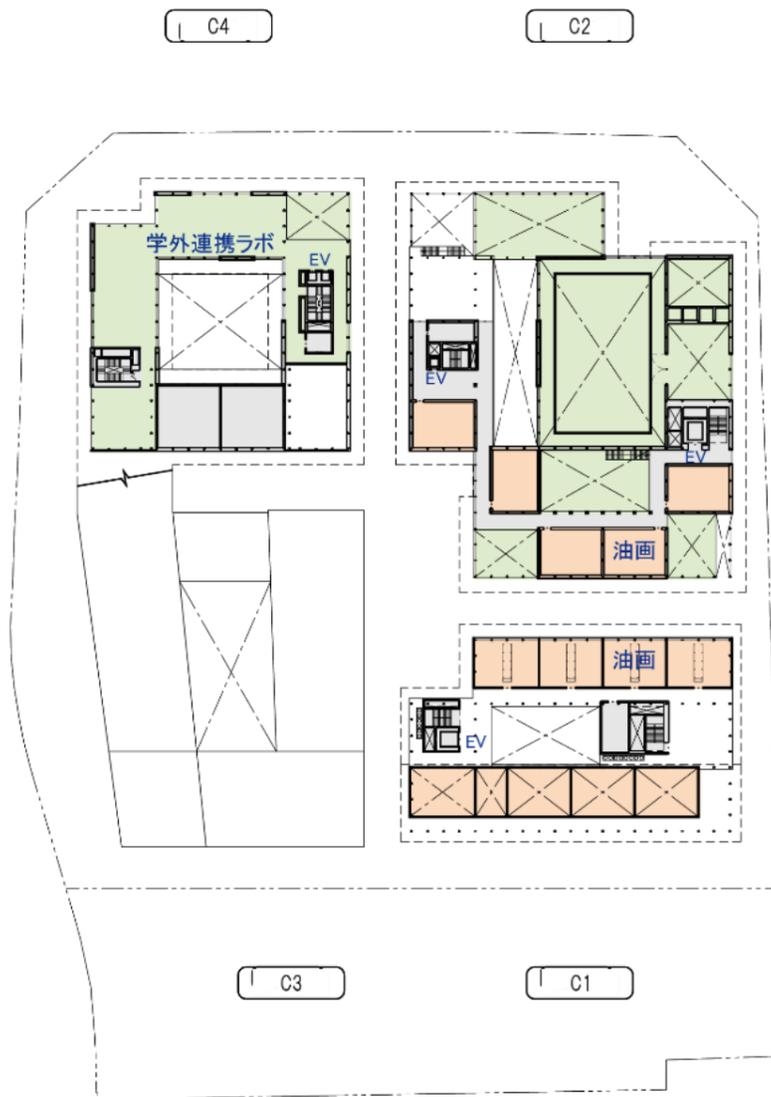
5階

京都芸大と他大学や企業等、外部との連携ができるスペースとします。

ギャラリー（多目的スペース）を眺望のよい上階にも配置し、展示だけでなくパフォーマンスなど、多彩な使い方に対応できるようにします。



C 地区
6階



C 地区
7階

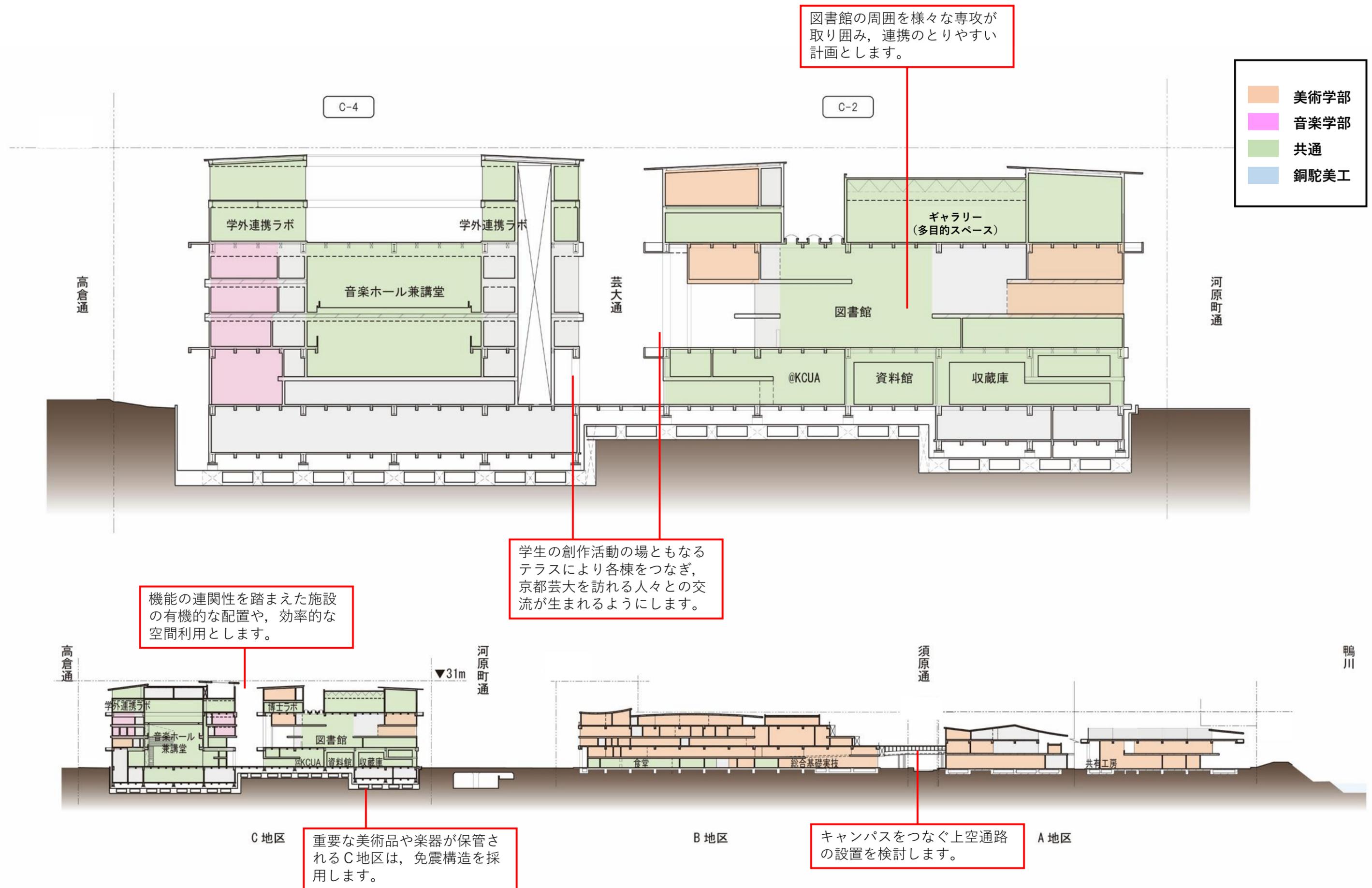


遮音性を高めるため、大合奏室を地下に配置します。

C 地区
地下1階

- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅駝美工

3 断面計画



4 環境への配慮, 安心・安全への配慮

○建築計画による省エネルギー化

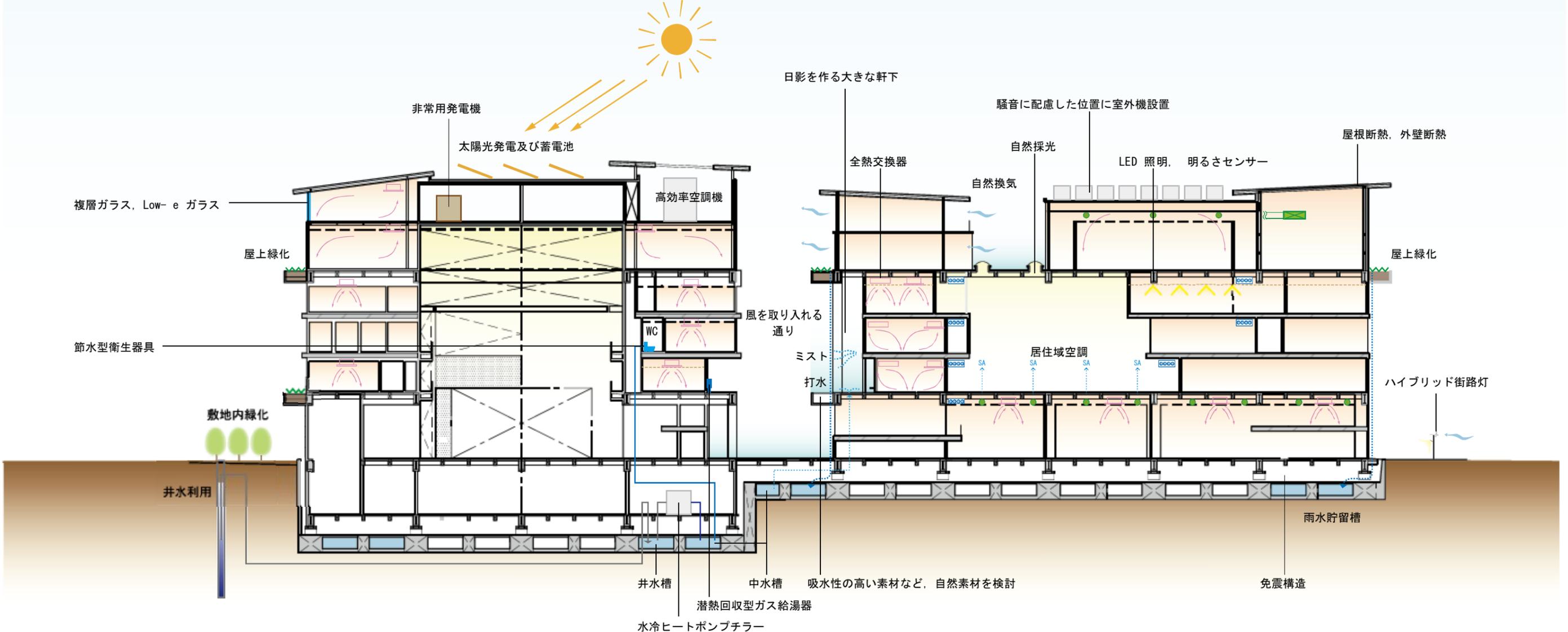
- ・大きな庇による日射の抑制, 屋根・外壁・建具の高断熱化により, エネルギー消費量の低減を図ります。
- ・吹き抜けや通りを設けることで, 建物内部まで光や風を取り入れ, できるだけ設備に頼らない, 快適な建築物を目指します。
- ・大きな屋根で集水した雨水を, 打水や散水などに活用します。

○エネルギーのベストミックスとマネジメント, 環境負荷低減の両立

- ・井水・地中熱及び太陽光等の再生可能エネルギーを活用するとともに, 熱源の分散化により, 高効率で災害に強いシステムを実現します。
- ・電力・水道・熱の消費量の見える化を行うなど, エネルギー運用の総合的なシステムを構築します。
- ・「京都市公共建築物低炭素仕様」に基づき, 京都市の建築物として求められる環境性能を満たします。

○防災活動拠点としてのキャンパス

- ・学生・教職員が安心して安全に教育研究に取り組めるよう, 十分な構造安全性やバリアフリー, セキュリティを確保したキャンパスとします。
- ・京都駅に近い立地を考慮し, 災害時の帰宅困難者が一時滞在できるスペースをC地区に確保します。
- ・元崇仁小学校が担っている避難所, 緊急避難場所としての機能を引き継ぎます。
- ・大雨による水害に備え, 電気室を2階以上の階に設置します。また, C地区に非常用発電機を設置し, 停電時にも電力を供給できるようにします。



環境配慮のイメージ